

教育センターフォーラム 発表テーマ及び概要

第1分科会 言語教育（3F セミナー301号室）

①外国語活動・英語教育の充実と連携～次期学習指導要領を見据えて～

【1-1】① 苦手から楽しく活動したくなる授業づくりをめざして

言語教育部門所員

習い事等で英語が得意な子どもがいる一方で、小学校ですでに外国語活動に苦手意識を持ってしまっている子どもがいる。英語に苦手意識を持つ子どもたちが、楽しく自信を持って学べるように、絵本の読み聞かせなど、担任ができる外国語活動の授業の取組みを報告する。

【1-2】① モジュールの活用 ～外国語活動の教科化を見据えて～

言語教育部門所員

次期学習指導要領では、小学校5・6年生の外国語科において週3回15分のモジュール型授業が検討されている。モジュールの使い方や内容・時間の活用について、実践から分かったことをもとに発表する。また、1時間の授業とモジュールの関連について研究した成果と課題について報告する。

【1-3】① 中学校でも音声重視の本文指導

言語教育部門所員

小学校外国語活動がはじまり、英語を聞くこと・話すことに抵抗がない生徒が増えてきている。しかし、中学校に入学すると、アルファベットの読み書きが定着しないままに、膨大な量の英単語を覚えなければならず、単語・教科書を正しく読めないことにつまづく生徒がいる。そこで、音声（聞く・話す）から文字の指導（読む・書く）につなげるために行った実践と、それらから見えた成果と課題について報告する。

【1-4】① 小中連携を活かした外国語活動の取組

言語教育部門所員

中学校英語教員と連携しながら、外国語活動の授業に取り組んできた。レッスンプランの作成や、校内の教材整備、研修などの実践の中で見えてきた成果と課題について報告する。

第2分科会 支援教育（3F 302号室）

② アセスメントに基づいたユニバーサルデザインの

授業づくり、合理的配慮個別の支援

【2-1】② 生徒が授業に集中して取り組める教室の環境整備

支援教育部門所員

支援教育研究協力校として2年目になる。落ち着いて授業が受けられるように教室内のユニバーサル化に取り組んできた。個々の生徒に目を向けると、整理整頓が苦手な生徒が多く、授業が始まる前に授業の準備物がそろわないなど課題がある。今回地域の小学校の持ち物の量と中学校で必要な教材の量など比較して、小中の段差をなるべく少なくできるよう取り組んだ内容を報告する。

【2-2】② 校内ですすむ授業のユニバーサルデザイン化

支援教育部門所員

ユニバーサル化することで何が変わるのか。環境整備、授業内の取組み、配布プリントの工夫など、先生方のアイデアをとりまとめ、認識を共有し、学校スタンダードを構築しようと取り組んできたことを報告する。また、他の研究協力校の成果も参考にしながら、さらにユニバーサル化を進めていくために、数年計画で系統的にすすめていく構想も紹介したい。

【2-3】② 安心して学び合える授業づくり

～どの子どもにも分かりやすい授業（ユニバーサルデザイン）～

支援教育部門所員

今年、支援教育研究協力校1年目で、授業のユニバーサルデザインについて学びながら、中学校区で「安心して学び合える授業づくり」に取り組んでいる。日々の授業の中で、子どもたちの「今、何をやる時間か?」「どんな学習をしているか?」といった疑問や困り感を少しでも解消するために、環境を整え、「視覚化」「焦点化」「共有化」に力を入れて取り組んできたことを報告する。

【2-4】② アセスメントにもとづいたユニバーサルデザインの授業づくり

～すべての子どもがアクティブに学びに参加するために～

支援教育部門所員

どのクラスにもさまざまな特性や発達課題、二次的な障害などを抱えている子どもたちがいる。アセスメントに基づいた適切な子どもの理解や支援・配慮が足りないために、学びへの意欲を失わせ、自尊感情の成長を妨げることに繋がってはいないだろうか。すべての子どもがアクティブに学びに参加できるユニバーサルな授業をめざし、児童のアセスメントに基づいた授業のユニバーサルデザイン化のアイデアについて報告する。

第3分科会（3F 303号室）

- ③ 茨木市不登校児童生徒支援室「ふれあいルーム」から
- ④ 魅力あふれる理科の授業づくりに向けて

【3-1】③ 児童・生徒の支援のために、“できる”ことを役割分担

（教育センター・不登校児童生徒支援室「ふれあいルーム」）

不登校になったきっかけ、原因は児童・生徒によって様々である。学校復帰という同じ目標に向け、本人・保護者への支援と学校との連携により、少しずつ“元気”を取り戻している児童・生徒に対してこれまでに行った具体的な支援について報告する。

【3-2】④ 理科の授業における効果的なタブレット端末の活用

理科教育部門所員

各小中学校にタブレット端末が配置され、各教科での活用が始まっている。本年度のタブレット端末を活用した理科の授業の実践例を紹介するとともに、タブレット端末の効果的な活用法やタブレット端末を使う利点について報告する。

【3-3】④ 書けなかった子が書けるようになった！

～科学的な概念や言葉を使って考え・説明できるようにするには～

理科教育部門所員

理科では、「科学的な概念・言葉を使って考え、説明する言語活動などを通して、科学的な思考力・知識・技能を習得し、活用できる力をつけること」が大事とされている。子どもたちにとっての科学的な概念・言葉とは何なのか、どうすればそれらを使えるようになるのかについて、学習を通して子どもたちが科学的な概念や言葉を使った説明が書けるようになった例をもとに報告する。

【3-4】④ 茨木市内の児童・生徒のもつ理科や科学に対する素朴なイメージ

理科教育部門所員

茨木市内の小学校6年の児童と中学校の生徒に、理科授業や科学に関するアンケートを実施し、アンケート結果を分析した。その中で見えてきた子どもたちが持っている理科や科学に対する素朴なイメージを報告する。今後各学校の授業でどんな力を育てていけばよいか、模索する一助になればと考えている。

第4分科会 情報教育（4F 教育工学室）

⑤ 「情報モラル」教育で学校課題と向き合う

⑥ タブレットを活用した授業づくりの実践報告

【4-1】⑤ 小学校の情報モラル

～子どもが知るインターネットいいところ、こわいところ～

情報教育部門所員

家庭や学校など様々な場所で子どもたちはインターネットを活用している。スマホやタブレットで気軽にインターネットでつながることができる現代。子どもたちのインターネットに関する意識調査を行い、「インターネットは便利な反面、怖いところもあり、注意ポイントが存在する」ことについての授業を、保護者に公開した取組みを報告する。

【4-2】⑤ 中学校の情報モラルの実態

～中1のアンケート調査より見えてきたこと～

情報教育部門所員

生まれながらにして、いつでもどこでもだれとでもコミュニケーションが取れる環境にある、現代の子どもたち。中学生になったいま、どのようにインターネットを利用しているのか。中学1年生を対象に行ったアンケートから見えてきた情報モラルの実態と、今教えるべきことについて、技術・家庭科（技術分野）での取組みを基に報告する。

【4-3】⑥ ICT活用の授業

～「楽しく、すすんで」を目指して～

情報教育部門所員

本校の研究テーマ「楽しく進んで参加する授業作り」にICT機器をどう活用するかを、校内全体で研究してきた。『全ての教師がタブレットを活用した授業を1時間以上する』ことを目指して実践した授業や、実際に使ってみた教師の声から、どのように授業が変わり学校が変わり子どもが変わったかを報告する。

【4-4】⑥ えんばわめんとな学校

～タブレット活用でアイデアいっぱいの授業をめざして～

情報教育部門所員

タブレットが茨木市の中学校に配備されてからもうすぐ3年。普通教室での活用を試行錯誤している。そこで本校では、「便利やねんけど…」とってはいるものの、なかなか活用されない現状を打破するための第一歩を歩み出した。その過程と今後の展望を合わせて、授業改革に取り組む本校のタブレット活用の様子を報告する。